

環境ユニバーシティ

岐阜大学の取り組み

2019



70th
2019
ANNIVERSARY



岐阜大学
GIFU UNIVERSITY



環境ユニバーシティへようこそ

日本をはじめとするいわゆる先進諸国では少子高齢化が問題ですが、世界的には人口爆発が続いていることは周知のとおりです。これを地球という限られた広さで支えるわけで、当然単位面積当たりの環境負荷が著増することは言うまでもありません。地球温暖化もその一端です。従って現在では地球環境をグローバルに守ることが、人類の将来にとって必須の課題です。国連によるSDGs (Sustainable Development Goals-持続可能な開発目標)、パリ協定など、持続可能な世界の実現に向け国際的な取り組みが進められています。世界の一員である我が国においてもエネルギー問題をはじめ環境問題が山積しており、個人々人から始まる各レベルでこの課題に取り組む姿勢が不可欠です。

国立大学法人岐阜大学は、2009年「環境に配慮した特色ある活動を継続的に展開、地域社会に貢献し、地域とともにありつづける大学」として『環境ユニバーシティ』を宣言し、サステイナブルキャンパスの構築を目指し、環境対策に関する取り組みを積み上げてきました。2013年にはISO14001の取得が全学レベル（医学部附属病院を除く）で完了し、2014年に審査登録証を授与されました。一つの事業体として一定の到達目標を達成できたものですが、今後はその定常的な見直しとレベルの維持、向上が責務です。

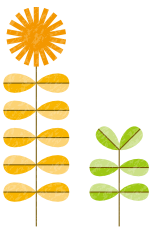
そこで、地球温暖化対策計画を受け、本学は「二酸化炭素排出量を2030年度において、2013年度比40%以上の削減」を目標に掲げ、医学部附属病院へのESCO (Energy Service Company) 事業導入とともに、積極的なエネルギーマネジメントを行うことで、目標達成に向けて取り組んでいます。

また、高等教育機関／高度研究機関でもある大学として、水環境、エネルギー環境などに関する教育と研究を積極的に展開し、広く国際貢献を行うことも意識しています。その目的で2018年度には研究推進・社会連携機構内に「地方創生エネルギーシステム研究センター」を立ち上げました。さらに先行する「流域水環境リーダー育成プログラム」ではアジアを中心に190名を超える人材（修士課程修了生）を既に輩出し、それぞれが帰国後、各地域で環境対策リーダーとして活躍しています。

なお本学は2020年4月より、名古屋大学と共に国立大学法人東海国立大学機構を設立します。国際的な競争力向上と地域創生への貢献を両輪とし、広汎な分野での教育・研究を展開します。より広い視点からより深く環境問題に積極的に取り組んで参ります。



岐阜大学長
最高環境責任者 森脇 久隆



環境ユニバーシティを卒業して



吉澤 樹理

立教大学 理学部 教育研究コーディネーター
2006年3月教育学部卒業、2011年9月連合農学研究科修了

私は現在、東京都豊島区にある立教大学で“サイエンスコミュニケーター（科学を分かりやすく伝える人）”をしています。大学の授業とは別に、区内の小学生に科学実験などの教育普及活動をしたり、小学校の教員に実技研修をしたりしています。

学生時代は、小さい頃からの夢であった理科の先生になるために教育学部の理科教育学科（生物学講座）で学んでいました。その授業の一つに「アリを20種類採集し種類を調べる」というものがありました。授業の合間や授業後に金華山や長良川周辺でアリを探しました。20種類採集する頃には、もっとアリのことを知りたいという気持ちが強くなり、教員への道を中断して農学部（現：応用生物科学部）の大学院へ進学しました。大学院での5年間は、研究をしたり、学会で発表したり、自身の研究を論文にしたりしました。充実した研究生生活を送りながら、その一方で小学生などに科学の魅力を伝える取り組みもしてきました。



「将来は子どもたちに科学のおもしろさを伝えたい」という気持ちが湧いてきたものこの頃です。一体どんな職業があるのかと全国各地に問い合わせをして得たのが、「科学館」の仕事でした。科学館での仕事の傍、杉並区の自然環境調査員としてアリの生息場所を調査しました。どのような場所にどんなアリがいるのかを調べている間は、まるで学生に戻ったような高揚感がありました。学生時代に学んだことが直接活かしていることがうれしくて、休日には区内の公園や畑を調べていました。

アリの生息場所を調べているうちに、ふと気付いたことがありました。それは、周りの環境によって生息しているアリの種類が違うことです。自然豊かな場所にしかないアリや人の手が入った場所を好むアリなど、種類によって大きく違いました。何年前にはいたアリも開発や整備によって見当たらなくなっていました。アリってこんなに環境に影響されるのかと驚きました。

科学館での仕事を経て現在は、子どもたちに科学の魅力を伝えています。自身の専門である「アリ」を用いたイベントを通して、子どもたちに自然環境に興味を持ってもらえるような取り組みに力を入れています。学生時代に夢中になった「アリの研究」が今、仕事に繋がっていることに幸せを感じています。



科学館での仕事を経て現在は、子どもたちに科学の魅力を伝えています。自身の専門である「アリ」を用いたイベントを通して、子どもたちに自然環境に興味を持ってもらえるような取り組みに力を入れています。学生時代に夢中になった「アリの研究」が今、仕事に繋がっていることに幸せを感じています。

環境ユニバーシティ宣言をしています

本学は、岐阜大学環境方針に基づき、環境に配慮した特色ある諸活動を継続的に展開し、地域社会に貢献し、地域とともにありつづける大学として、2009年11月27日に「環境ユニバーシティ」を宣言しました。

岐阜大学環境方針

岐阜大学は、本学が掲げる理念を達成するとともに、「環境ユニバーシティ」としての取組みを継続発展させ、環境に配慮した大学環境を創り出すとともに環境を担う優れた人材育成に努めます。

基本方針

1. 岐阜大学の特長を生かした環境教育・研究を推進します。
2. 教育・研究活動の環境側面を常に認識し、環境影響を評価し、環境汚染の予防に努めます。
3. 省エネルギー、省資源を推進し環境負荷の一層の軽減に努めます。
4. 教育・研究に関わる順守義務の適合に努めます。
5. 環境パフォーマンスを向上させるため、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。
6. 教育・研究を通して、気候変動の緩和及び生物多様性の保護に寄与します。
7. 毎年度活動目標を設定し、達成していきます。

岐阜大学は、この環境方針を学内外に周知し、広く公開します。

2016年4月1日

岐阜大学長
最高環境責任者

森 昭久 隆



環境への取り組みが評価されました



- 平成30年度「環境賞」環境大臣賞
- eco検定アワード2018 エコユニット部門 奨励賞
- eco検定チーム戦「eco-MASTER GRAND PRIX 2018」学生部門第2位入賞
- サステナブルキャンパス賞2018 建築・設備部門 奨励賞
- サステナブルキャンパス評価システム(ASCC)ゴールド認定 (2019年2月)



サステナブルキャンパス賞2018 受賞式



環境に関する教育



全学共通教育「環境マネジメントと環境経営」(前学期・後学期)

講義では、地球が抱えている環境問題の現状や、環境マネジメントシステムの枠組み、実際の内部環境監査の手法について修得します。市役所や企業の方をゲストスピーカーとしてお招きし、自治体や企業が取り組んでいる環境対策活動について紹介していただいたり、環境に配慮した設備の見学も実施しています。



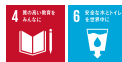
岐阜市メガソーラー発電施設の見学

また、集中講義「**環境、CSR(企業の社会的責任)とマネジメント**」も開講しています。

https://www.gifu-u.ac.jp/about/publication/g_lec/class/37.html

各学部で開講している環境に関する講義数

全学共通教育	22科目	工学部 工学研究科	60科目
教育学部 教育学研究科	42科目	応用生物科学部	173科目
地域科学部 地域科学研究科	40科目	自然科学技術研究科	104科目
医学部 医学系研究科	4科目		



流域水環境リーダー育成プログラム

発展途上国が直面する水質・水資源・生態などの極めて深刻な流域水環境分野の問題解決に取り組む環境リーダーの育成を目的として、2009年7月にスタートしました。これまで、アジアを中心に190名を超える環境リーダーを輩出し、帰国後それぞれの国で活躍しています。(2019年4月現在)



幅広い分野の専門知識の修得や国内外でのグループインターンシップ、国際色豊かな学生間の交流を通して、流域水環境に関わる問題解決に必要な基盤・国際性・コミュニケーション能力を養成しています。

※詳しくはHPをご覧ください。<http://www.green.gifu-u.ac.jp/BWEL/index.html>



持続可能な開発目標

「SDGs (Sustainable Development Goals)」とは、2015年9月の国連サミットで採択された国際社会共通の目標です。本学も積極的に取り組んでいます。

※関連する取り組みにアイコンを記載しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えするための17の目標



環境マネジメントの取り組み

ISO14001 : 2015を認証取得しています! (附属病院を除く)

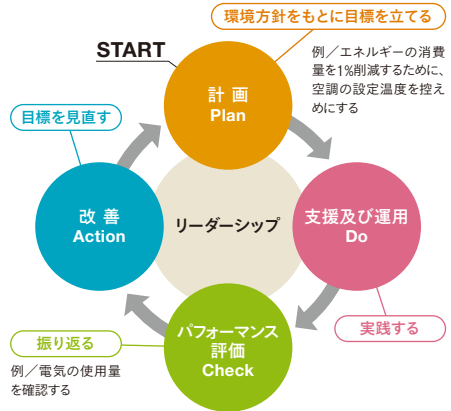


ISO14001の認証取得とは?

国際標準化機構が制定した、各組織（企業、大学等）が「環境マネジメントシステム」を構築するための基準です。各組織の「環境マネジメントシステム」がその基準にそって構築され、運用されていることを第三者の審査機関によって認められることが必要です。

環境マネジメントシステムとは?

大学の教育・研究活動を進めることによって生じる環境への影響を少なくするために、環境目標を設定し、その目標達成に向けて、環境配慮活動に取り組み、評価し、改善していくPDCAサイクルを基本とし、スパイラルアップにより、パフォーマンスを継続的に改善していく仕組みです。



大学活動におけるマテリアルバランス (2018年度)



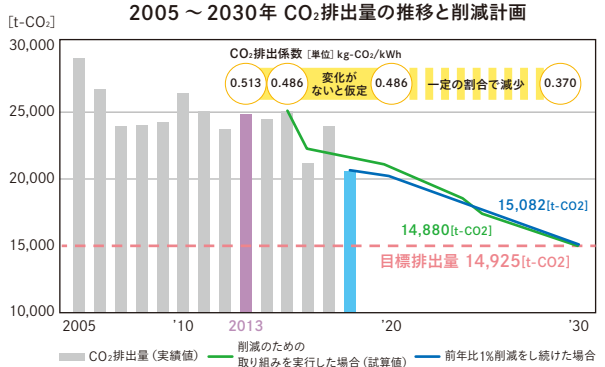
エネルギーマネジメントの取り組み

二酸化炭素排出量を2030年度において、2013年度比40%以上削減します!



目標達成に向けて、取り組んでいます。

- 各学部校舎の大規模改修
- 24時間稼働機器の更新
- 附属病院の熱源機器の大規模改修
- 照明器具のLED化
- ベース電力の削減
- 再生可能エネルギーの導入
- 高効率空調機への置換え
- 各自の省エネへの取り組み



環境配慮活動



学生による内部環境監査



ISO14001について研修を受けた学生たちは、職員とともに、本学の環境マネジメントシステムの取り組みについて、学生の視点から監査を行います。

2018年11月、学長より内部環境監査員養成研修了証書が12名に授与されました。



環境ユニバーシティフォーラム



毎年11月の環境月間に、環境に関連したトピックをもとに「環境ユニバーシティフォーラム」を開催しています。

2018年度は宮内庁式部職の山下哲司鶴匠より「長良川の鶴飼」と題しご講演いただきました。



岐阜う米(まい)プロジェクト



FC岐阜との環境連携事業として、米ができる自然環境をより身近に感じ、環境保全について考えてもらうことを目的とした活動です。

- 第1弾：親子田植え体験・どろんこサッカー（6月）
- 第2弾：稲刈り体験（11月）
- 第3弾：FC岐阜選手へ収穫したお米の贈呈（11月）



クリーンキャンパス



キャンパスの環境美化の取り組みの一環として、毎年2回（5月・11月）、全学で実施しています。また、キャンパス周辺のごみを拾う「大学周辺ゴミ0（ゼロ）活動」や、特定外来生物「オオフサモ」駆除も行っています。





チェックしてみよう!

チェック内容		チェック
エアコンの設定温度は控えめにしよう (室温の目安：夏28℃、冬19℃)		
照明の使用を必要最小限にしよう		
部屋を最後に離れるときは、エアコン・ 照明をOFFにしよう		
ごみは分別して、ごみ箱に捨てよう		
実験に使用した薬品は「実験廃液等の分別 貯留ポスター」に従って、適切に廃棄しよう		

ISO14001の活動と一緒にしてくれる学生を募集しています。

環境活動に興味のある人は、右のQRコードまたは
下記のメールアドレスにご連絡ください。

岐阜大学EMS専門委員会 : iso_ems@gifu-u.ac.jp



お問い合わせ先

岐阜大学環境対策室 (施設環境部 環境企画課)

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1 TEL : 058-293-2118 FAX : 058-293-2125

<http://www1.gifu-u.ac.jp/~kankyo/>

岐阜大学 環境対策

検索